

「行って 撮って 乗って 全駅調査！」



【全駅に行って思ったこと】

- ほとんどの駅は無人だけど、ボランティア駅長さんたちが北条鉄道を盛り上げようとしていることが分かった。
- 長駅・播磨下里駅・法華口駅が国の登録有形文化財に登録されていて、昔の名残が感じられてよかった。
- 地域の人達がボランティア活動をして、何とかこの路線を残そうと応援している人がたくさんいて、僕も北条鉄道に乗って応援しようと思った。
- 朝方や夕方は働く人や学生のために増便していることを知って、便利だと感じた。
- 駅を回っていると撮り鉄の人がたくさんいて、やっぱり北条鉄道はすごいなと思った。そして、自分も同じところから写真を撮ってみたいと思った。

「北条鉄道」ってどんな路線？

【調べたきっかけ】

ぼくは北条鉄道が大好きです。一歳の頃から毎年北条鉄道とつながっています。イベント列車に乗ったり絵を描いたり、いろんな場所から写真を撮ったりしてきました。そんな北条鉄道が、今年で40周年を迎えます。だから、この機会に詳しく調べることになりました。

【北条鉄道とは】

北条鉄道は、兵庫県加西市の北条町駅から小野市の栗生駅まで結ぶ13.6キロ、全8駅のローカル線です。北条鉄道は、今年で40周年を迎えます。初めは播州鉄道として1915年（大正4年）に開業しました。そこから数えると、今年で110周年を迎えます。

播州鉄道時代は、播州平野で作られたお米や特産品を運ぶ大切な役割をしていました。その後、播州鉄道は1943年（昭和18年）に国に買い上げられ、国鉄北条線になりました。この鉄道は、第二次世界大戦の時には、工場で使う資材や、兵士を運ぶのに使われました。戦後も、地域の人が学校や買い物へ行くのに利用する大切な交通手段でした。

昭和の終わりが、赤字になってしまった国鉄北条線は廃止されることになりました。しかし地元の人たちが「この鉄道は私たちの生活に欠かせない!」と立ち上がり、1985年（昭和60年）に北条鉄道株式会社として再出発することになったのです。かつての面影を残した無人の駅舎や風景等をたのしみながら、贅沢な時間を味わえるのが魅力です。様々なグッズを販売したり、楽しいイベント列車を走らせたりしています。さらに、2021年（令和3年）新しい車両のキハ40を導入し、地元だけでなく遠いところからも鉄道ファンがやってきています。様々な努力によってどんどん乗客数が増えてきて、昨年度は初めて黒字となりました。

自分で撮った写真と自分で作った模型で車両紹介!

フラワ2000-1



フラワ2000-2



フラワ2000-3



キハ40-535



今年運転士さんになった2人に直撃取材!



高橋朋大さん (写真右)

- どうして北条鉄道の社員に? →「地域の足」になることに貢献したかったから。
- 大変なことは? →運転 (命を預かるから)
- 運転してよかったことは? →降りる時に「ありがとう」と言ってもらえたこと。
- どうやって運転士に? →①鉄道会社入る ②筆記試験に合格(鉄道の用語 車両の役割 プレーキ計算など) ③実技試験に合格(速度や停止など正しく運転できる)
- 北条鉄道の魅力は? →距離は短い、地域の足となっていること。
- 好きな車両は? →キハ40! でも運転は難しい...
- 好きな駅は? →法華口。行き違いができるから。

入江健太さん (写真左)

- どうして北条鉄道の運転士に? →鳥取県の警察官だったが日常の仕事をしたと思うようになった。公共交通機関は子どもからお年寄りまで利用しているため興味をもち、探していたら北条鉄道が募集していた。北条鉄道を調べると、イベント列車など、お客さんを運ぶだけではなくみんなとの距離が近い様々なことをしていたので、この鉄道会社で働いているんだと憧れたいと思って試験を受けた。
- 仕事で大変なことは? →お客さんの対応や安全対策、トラブル等を一人に対応しないといけないこと。
- 楽しい? →運転していると、ラジオ体操をしている子どもや畑仕事をしている人、自転車を運転している人など、いろんな人が手を振ってくれて楽しい。
- 北条鉄道の魅力は? →ただ単にお客さんを運ぶだけではなく、イベントなどを積極的にして人を喜ばそうとしているところ。
- 好きな車両は? →キハ40...と言えるように、運転が難しいキハ40を上手に動かせるようになりたい。
- 好きな駅は? →全部好き! 各駅の枕木に、たくさんの人の名前や応援メッセージがある。それを見ると、沢山の人の応援してもらっていることが伝わるから。

【感想】 運転士になるためにはとても長い道のりだということに気づき、大変だなと思いました。しかし、入江運転士さんや高橋運転士さんは、諦めずに努力して合格していました。それは「みんなに喜んでくれる運転士になりたい」という思いがあったからだと思います。僕も大人になって運転士を目指すときは、入江運転士さんや高橋運転士さんのように、自分で目標を立てて、何事にも諦めずにがんばろうと思いました。僕のために、二人とも仕事の手を止めて親切に答えてくださってとても嬉しかったです。ありがとうございました。

キハ40を呼んだ救世主の坂江さんに直撃取材!



今年自分で描いた絵
「始発に向けて出区点検の様子」

【キハ40を北条鉄道に呼んだ坂江大宗さんに直撃インタビュー】

- キハ40を北条鉄道に呼んだわけは? →元々3両あるが、増便して法華口駅で「行き違い」をするためには、車両が足りない状態だった。秋田県で引退したキハ40に目を付けて、クラウドファンディングによって買い取ることができたから。
- キハ40を走らせた効果は? →キハ40に乗りたいたお客さんが増えたことで、北条鉄道全体の乗客数も増えた。
- 坂江さんが好きな車両は? →紫の車両(フラワ2000-2)。プレーキが効きやすく運転しやすいから。
- 好きな駅は? →栗生駅。たくさんの電車が見られるから。
- キハ40の色を塗り直さないわけは? →キハ40を見た人が懐かしいと思えるから。旧国鉄時代に全国で大活躍したキハ40だが、この色の車両はこの車両しか残っていないから。キハ40ファンを大切にしている。
- 北条鉄道の魅力は? →景色が良くて、お客さんと運転手の距離が家族のように近いところ。
- 40周年について →様々なイベントを考え中。播州鉄道から数えて今年で110周年。それ以上にずっと続いてほしいなあ。
- 北条鉄道への思い →もっと乗客数が増えてほしいから、これからもがんばる!

【感想】 乗客数を増やしたいという思いで秋田県から遥か離れた兵庫県へキハ40を連れてくるのは、とても大変だったんだなと思いました。それでもたくさんの人たちの喜ばせるために、諦めずに工夫しながらキハ40を北条鉄道で走らせたことに、とても感動しました。いつまでも北条鉄道が残ってほしいと思いました。だから、これからも北条鉄道に乗ったり、乗客数が増えるにアイデアを考えたりしようと思いました。

なぜ、市内の「赤松自工」に北条鉄道のレールバスがあるの?

「赤松自工」は、自動車の車検や板金、塗装や修理など、車のことなら何でもしてくれるところ。その敷地内にはなんとすでに引退した「北条鉄道のレールバス(フラワ、1985-3号)」が保存されているのです! しかも、レールバスの周りには、ちゃんとレールも砂利も敷いてあり、踏切警報機や遮断機と一緒に大切に保存されているのです。どうして「赤松自工」に北条鉄道のレールバスがあるのか前からすごく気になっていたの、社長の赤松昇さんと奥さんのえつ子さんに取材しました。

レールバスがある理由は、昇さんが「せり」で買うことができたからです。日本に三台しかない貴重なレールバスを、壊したり改造してしまったりするよりも、「何とかそのままの状態に保存したい」と思って買ったそうです。約16万円で入札することができたそうですが、ここからが大変だったようです。運ぶために4トントラックを二台使い、長いトレーラーに積んで北条町駅から運んできたそうです。約300万円かかったそうです。国鉄指定の砂利やレールバス専用のレールを敷いたり、当時実際に使っていた北条鉄道の踏切警報機や遮断機も設置しました。さらに、エンジンがかかるように、ダイナモやセルモーターなどの部品も手配し、自分で設置したそうです。当時はエンジンがかかり、ライトも付き、汽笛もなっており、とても感じが良かったです。

「赤松自工」にレールバスを持ってきたことで、たくさんの人に喜ばれ、感謝もされたそうです。地元では、道案内の目印に使われたり、長期休みになるといろいろなところから鉄道ファンがレールバスを見に訪れたりします。大学生がレールバスで燃費の研究をするために、一泊二日でやって来たこともあるそうです。そして、東京からも取材に来て、雑誌にのったこともあるそうです。さらに、鉄道のことが大好きなタレント「斎藤雪乃」さんや神戸電鉄親善大使の「古賀千尋」さんたちも、「北条鉄道応援ツアー『加西の魅力体験クローズアップ』」というテレビ番組で来たそうです。このように、レールバスをきっかけに、「赤松自工」の名前を知ってもらえるようになったそうです。

取材をしていると、レールバスをコレクションするだけではなく、赤松さん自身も北条鉄道を利用したり、「北条鉄道と北条の宿 まちあるき」などのイベントに参加したりして、北条鉄道や地域を盛り上げようとしていることが分かりました。僕は「電車ほしいな」と思っていたけれど、それは簡単なことではないと今回の取材で気づきました。赤松さんの北条鉄道に対する思いを知って、「自分も何か北条鉄道の利用が増える取り組みをしたい。北条鉄道がいつまでも続くように守りたい。」と思いました。これからも北条鉄道の研究をしたり、乗ったりしようと思います。そして、北条鉄道のいいところをみんなに広めたいです。(何年も前から「レールバスの中が見たい」と思っていた願いを叶えてくださりました! 運転席に座ったりいっしょに写真を撮ったりして楽しめました。)



社長の赤松昇さんにインタビュー

赤松えつ子さんにインタビュー

【編集後記】

みんなの「いつまでも北条鉄道を残したい」という思いに僕も共感しました。だから、「枕木応援団」に参加しました。これからも、北条鉄道に乗ったり絵を描いたりして、北条鉄道を応援していきたいです。取材に協力してくださったみなさん、本当にありがとうございました。



【始発に向けて1人で準備する 平山運転士に取材!】

・何時から仕事をしていた? →4:30頃出勤している。4:45頃エンジンをかけてコンプレッサーに空気がたまるのを待つ(プレーキに空気が必要)。適量たまってから点検開始。

・どんな仕事をしていたの? →出区点検。ドア開くか・汽笛鳴るか・燃料あるか・連結器動くか・ブレーキマスコやノッチは正常かなど乗る運転士が自分で確かめる。

【感想】 みんなが寝ている朝早い中、一人で出区点検をしていて大変だなと思いました。運転する列車に異常はないか、安全を守るために一生懸命作業していることが分かりました。僕も鉄道の運転士になったら、平山さんがしていたみたいにみんなの安全を守るためにしっかり出区点検をしたいと思いました。